

2023年5月28日 LINEメッセージ 日本キリスト兄弟団 新下関教会
<http://olive.lovepop.jp/LINEsound/2023/20230528.mp3>

廣川和行牧師 ヨハネの福音書 15章 12節～17節

「これよりも大きな愛はない」

9分43秒

15:12 わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。

15:13 人が自分の友のためにいのちを捨てること、これよりも大きな愛はだれも持っていません。

15:14 わたしが命じることを行うなら、あなたがたはわたしの友です。

15:15 わたしはもう、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべなら主人が何をするのか知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。父から聞いたことをすべて、あなたがたには知らせたからです。

15:16 あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命しました。それは、あなたがたが行って実を結び、その実が残るようになるため、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものをすべて、父が与えてくださるようになるためです。

15:17 あなたがたが互いに愛し合うこと、わたしはこれを、あなたがたに命じます。

おはようございます。

今日は教会の暦の上では

ペンテコステ 聖霊降臨の日 と呼ばれています。

ヨハネの福音書 14章 16節でイエスは、

「わたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてくださいませ。」と約束されています。

イエスが死者の中から復活され、天に帰られた後、弟子たちが集まっているところに、聖霊なる神様が下って来られました。その時の記事は使徒の働き 2章に詳しく書かれています。

その時から弟子たちは、聖霊なる神様と共に歩み、世界中に福音が述べ伝えられ、主にある教会の群れができて、今日に至っているのです。

さて今日のヨハネの福音書 15章 12節から 17節の箇所は最後の晩餐の席で、イエスが弟子たちに語られた言葉の続きです。15節においてイエスは弟子たちにこのように語られています。

「わたしはもう、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべなら主人が何をするのか知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。父から聞いたことをすべて、あなたがたには知らせたからです。」

イエスは愛する弟子たちを友と呼ばれています。

当時しもべは

主人から命じられたことだけを聞いて行えば良かったのです。

命じたことの意味や目的などを詮索したり、

理解して行うことは、しもべには必要のないことでした。

そのような社会常識の中で、イエスは弟子たちにあなた方を友と呼び弟子たちに、ご自身とその働きについて話されたのです。

弟子たちや私たちを友として選び、任命されたのは、

主イエス様ご自身です。

「あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命しました。」と 16節で言われている通りです。

人間は誰も、イエスを友として選ぶ資格も権威もありません。

イエスが弟子たちや私たちの友となってくださったのです。

友と呼ばれることにより、神様との距離の近さや親しさを覚えます。

♪わが友 主イエスは われを見出し 引き寄せ給いぬ 愛の糸もて
御側に侍れば 何をか恐れん 今 主はわがもの われは主のもの♪
新聖歌 317 番「わが友 主イエスは」の賛美を思い出します。

そもそも天の父なる神様は、この全宇宙のすべてのものを創造し、今もこの世界を支配しておられる全知全能の神様です。被造物である人間は神様に近づくことも、自分の方に引き寄せることもできません。その一方で、聖書は私たち人間に近づいてくださる神様について語っています。ヨハネの福音書1章14節に「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。」と記されている通り、約2000年前、イエス様は人となってこの地上に生まれ、私たち人間の中に住んで、共に歩んでくださいました。そしてピリピ人への手紙2章8節では、イエス様は「自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。」とあります。ここではイエス様は「人が自分の友のためにいのちを捨てること、これよりも大きな愛はだれも持っていません。」(13節)と語っておられる通りにイエス様はすべての人間の罪を贖うために、十字架にかかって、ご自分の命を捨てて、弟子たちや私たちに対する大きな愛を示して下さいました。イエス様は私たちに近づいてくださり、友と呼んで親しく交わってくださるのです。最後の晩餐が終わって数時間後、イエス様がユダヤ人指導者たちに捕らえられた時、弟子たちは皆イエス様を見捨てて逃げていきます。そうなることをイエス様は知っておられたにもかかわらず、弟子たちを友と呼ぶと言われたのです。イエス様は、弟子たちと同様に、私たちをご自分の友と呼んでくださり、私たちが歩いていく指針を示してくださっています。一つは、互いに愛し合うことです。この戒めは最後の晩餐の席でイエス様が言われました。

そして12節で再び「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。」とイエス様は言われ、17節でまた、「あなたがたが互いに愛し合うこと、わたしはこれを、あなたがたに命じます。」と再三重ねて言われています。このメッセージをイエス様がいかに大切なものとして弟子たちに語られているかが分かります。イエス様を悲しませるようなことをたびたびしていた弟子たちでしたが、イエス様は弟子たちの弱さを受け入れ、尚も愛して、友となってくださり、助け導いてくださいました。弟子たちに強くこの戒めを語ったのは、弟子たちや私たちが、互いに相手を理解しようとしたり、寛容に接し、助け合っていく姿は、主を知らない人々にとっては、その生き方、在り方が、イエス様を知らせることになるからです。もう一つ、16節後半で「あなたがたが行って実を結び、その実が残るようになるため、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものをすべて、父が与えてくださるようになるためです。」とイエス様が語られていることです。あなた方が行ってとあるように、イエス様が私たちに遣わしたいと願っておられる所があります。その所で実を結びその実が残ることを主は望んでおられるのです。それはあなたの家庭や職場、友人関係あるいは近くの地域、教会の交わりかもしれません。イエス様は、友であるあなたや私と一緒にいきたい所があるので私たちにうちにおられる聖霊によってイエス様の願いや御心を知って、実を結ぶように祈っていきましょう。御心になかった願いや祈りを、主は必ず叶えてくださり、

それは実を結び、その実が残ると約束されているのです。

今週も、イエス様によって遣わされたところ置かれたところで、
主イエス様と共に歩み、実を結ばせていただきましょう。
熱くなってきたおり、また台風接近の予報もあります。
皆様の健康と生活が守られ、
今週の歩みも、主の祝福が豊かにありますようにお祈りをいたします。

お祈りいたします。
ご在天の父なる神様、
私たちが愛し慈しんでくださっているあなたの御名を褒め称えます。
先週一週間の歩みを守り導いてくださったことを心から感謝いたします。
イエス様は私たちが友と呼んでくださいます。
そのことを心から感謝いたします。
友となってくださったイエス様と共に歩み、
実を結ぶことができるように導いてください。
今週の兄弟姉妹の歩みを豊かに守り、祝福してください。
病を得ている方々を癒し、健やかにしてください。
試練の中にある方々を励まし支えてください。
主イエス・キリストの恵みと、神の愛と、聖霊との親しき交わりが、
会衆一人一人の上に、今も後もとこしえまでも力強くあらんことを。
アーメン。

今日のお花は、紫陽花やウツギ、なでしこの花々が爽やかに活けられて
いて、曇天の天気ながら、心に風が吹いてきたようでした。
ペンテコステの日、主を礼拝するめぐみに感謝します。

